

日本認知言語学会第20回全国大会プログラム 【1日目】

8月5日(月) 受付9時30分(場所: B号館1階入り口)

		第1室 B号館101教室	第2室 B号館201教室	第3室 B号館202教室	第4室 B号館203教室
ワークショップ	10:00 12:20	“The Emergence of Pragmatic Markers from Chinese Nominal Compounds in Chinese, Japanese and Korean: Perspectives from East Asian Languages and Beyond” ○Yuko Higashiizumi (Meiji University), Seongha Rhee (Hankuk University of Foreign Studies, Korea), Ji-Yeon Park (Nagoya University [院]), Reijirou Shibasaki (Meiji University), Keiko Takahashi (Meiji University), Wenjiang Yang (Nankai University, China)	「認知言語学が新しい時代の英語学習/教育に貢献できることは何か？」 ○今井隆夫 (愛知県立大学 [非]), 中川右也 (鈴鹿高等学校), 都築雅子 (中京大学), 中谷博美 (北陸学院大学), 宮浦国江 (北陸学院大学)	“Chinese and Japanese Metaphors: A Contrastive Approach” ○KJ Nabeshima (Kansai University), Satomi Arizono (Nagoya Gakuin University), Ning Yu (Pennsylvania State University), Haiyan Xia (Kanagawa University), Wenxin Li (Tsukuba University), Kazuko Shinohara (Tokyo University of Agriculture and Technology, Commentator), Toshio Ohori (Keio University, Commentator)	“Figurative Language and Grammar” ○Seiko Fujii (University of Tokyo), Eve Sweetser (University of California at Berkeley), I-Hsuan Chen (Hong Kong Polytechnic University), Hiromasa Mita (University of Tokyo [院]), Kei Sakaguchi (University of Tokyo [院]), Oana David (Google LLC), Paula Radetzky (Kamus International)
		*Presentation in English		*Presentation in English	*Presentation in English

昼食休憩(12:20~13:20)

開会挨拶・学会奨励賞授賞式(13:20~13:40) 会場: B号館101教室

シンポジウム 13:40~16:20 会場: B号館101教室	テーマ: 言語学を越えて広がるオノマトペの可能性
	司会: 坂本真樹 (電気通信大学) 第1発表: 秋田喜美 (名古屋大学) 「オノマトペの音象徴性再訪」 第2発表: 渡邊淳司 (NTT コミュニケーション科学基礎研究所) 「オノマトペや音象徴を利用したワークショップ」 第3発表: 金ジョンヒョン (博報堂) 「オノマトペを用いたプロダクト開発」 第4発表: 坂本真樹 (電気通信大学) 「オノマトペの音象徴性の工学的応用」

		第1室 B号館101教室	第2室 B号館201教室	第3室 B号館202教室	第4室 B号館203教室	第5室 B号館204教室
司会		深田智 (京都工芸繊維大学)	古賀恵介 (福岡大学)	宮浦国江 (北陸学院大学)	尾谷昌則 (法政大学)	濱田英人 (札幌大学)
第1発表	16:30 17:05	“Quantitative Corpus Analysis on the Social and Developmental Trends in Young Children’s Spontaneous Polite Language Usage in Japanese” Franklin Chang (Kobe City University of Foreign Studies), Tomoko Tatsumi (Kobe University)	「英語中間構文の「非典型的」典型」 板垣浩正 (弓削商船高等専門学校・大阪大学[院])	“Obama’s Jokes and Metaphorical Expressions in the White House Correspondents’ Dinner (2009-2016)” Yuuki Tomoshige (Osaka University[院])	「Xすぎる構文の考察—天使すぎるはなぜ言えるのか—」 佐藤らな (東京大学[院])	「副詞の(間)主観性」 平岩加寿子 (大阪学院大学[院])
		*Presentation in English		*Presentation in English		
第2発表	17:10 17:45	「日本語文末詞ノの習得過程と文脈的要素—CHILDESの親子対話を用いて—」 富岡史子 (岡山大学[院])	「事態認知モデルを用いたインドネシア語の接頭辞ter派性動詞の考察」 佐近優太 (東京外国語大学[院])	“What’s so Far about the Far Side?: Fatal Flaws, False Analogies and Quirky Logic in the Conceptual Blends of Gary Larson” Carey Benom (Nagasaki University)	「外心複合語の認知言語学的分析」 萩澤大輝 (神戸市外国語大学[院])	「日英語のデフォルト志向性とその解除—英語の非定形節に見られる主体化現象を中心に—」 廣瀬幸生 (筑波大学)[招聘]
				*Presentation in English		

懇親会(18:20~20:20) 会場: 関学会館

※1日目・2日目ともに、B号館104教室及び廊下にて書籍展示を行います。

日本認知言語学会第20回全国大会プログラム 【2日目】

8月6日(火) 受付9時10分(1日目に受付をされていない方のみ)

		第1室	第2室	第3室	第4室	第5室
		B号館101教室	B号館201教室	B号館202教室	B号館203教室	B号館204教室
司会		多々良直弘 (桜美林大学)	早瀬尚子 (大阪大学)	初山洋介 (南山大学)	仲本康一郎 (山梨大学)	横森大輔 (九州大学)
第1発表	9:30 10:05	「フレームシフトと漫才における笑い」 西岡悠 (美浜町立和田小学校), 西山淳子 (和歌山大学)	「容器の身体性についての考察—Johnson (1987) と併せて—」 神野智久 (フリー)	「日本古典文学からみるナル表現」 山本美紀, 守屋三千代 (創価大学)	「語義間類似度の双方向評定に基づくプロトタイプの意味の解明—クラウドソーシングを用いた量的調査による多義的形容詞分析—」 西内沙恵 (筑波大学[院]), 加藤祥 (国立国語研究所), 浅原正幸 (国立国語研究所)	「中国語の談話標識「这么说吧」と英語の定型表現「so to speak」の対照—関連性理論の観点から—」 龐龍傑 (名古屋大学[院]), 堀江薫 (名古屋大学)
	10:10 10:45	「直喩標識としての「じゃないけど」—談話における直喩とアナロジーの再考に向けて—」 岡本雅史 (立命館大学)[招聘]	「英語の移動構文における着点志向性」 森下裕三 (環太平洋大学)	「日本語動詞の自他—『詞通路』の再考—」 川島嘉美 (石川工業高等専門学校)	“Qualitative Adjectives as Reference Modifiers in Japanese” Takashi Ishida (University of Tsukuba[院]) / JSPS Research Fellow, Ryohei Naya (University of Tsukuba)	「談話標識としての「というか」の機能再考—「というか」「てか」との比較をもとに—」 川北麻由 (東京大学[院])
10分休憩						

司会		古賀裕章 (慶應義塾大学)	井上京子 (慶應義塾大学)	野村益寛 (北海道大学)	大月実 (大東文化大学)	平沢慎也 (東京大学非常勤)
第3発表	10:55 11:30	「精神作用を表す身体部位詞の史的展開—<胸>と<頭>を中心に—」 後藤秀貴 (大阪大学[院])	「感情表現の構文パターンと感情の捉え方に見る言語表現の多様性と共通点—日韓中英独語を対象に—」 王安 (法政大学), 上原聡 (東北大学)	「言語化のための思考整理—思考の区画化に関する提案—」 Ruben Polo-Sherk (広島大学[院])	「「逆隠喩」再考—「逆隠喩」の成立基盤をめぐって—」 松浦光 (横浜国立大学[非])	「「p, I don't think.」の生起に関する認知言語学的考察」 森貞 (福井工業高等専門学校)
	11:35 12:10	「Way構文の修辭的事態描写」 中村英江 (神戸女子大学[院])	「日常会話における“V(O)了”の非典型な変化について—談話分析と認知言語学の視点から—」 胡良娜 (東京外国語大学[院])	「失語症における抽象的態度の障害とその認知メカニズム」 佐藤亜弓 (京都大学[院])・関西医科大学付属病院, 佐藤雅也 (京都大学[院])	「商標の創造性にみる構文スキーマと認知ドメイン—接頭辞「Mc-」をめぐる商標権争いを題材に—」 五所万実 (慶應義塾大学[院])	「No more A than B構文の意味と機能—「クジラ構文」とはいかなる構文か—」 廣田篤 (金沢大学[院])

昼食休憩 (12:10~13:40 ポスターセッションを含む)

ポスターセッション	12:30 13:30 9件 同時進行	「V + oneself + down 構文に関する一考察—再帰代名詞の働きかけの希薄化と構文拡張通時的観点から—」 市川泰弘 (日本工業大学)	「日本生まれ・育ちのJLL児童 (Japanese Language Learner) の語彙力—音声と漢字表記との関わりからの考察—」 島田友絵 (華東師範大学)	「多義語用例の類似度による語義の分類—「遠い」と「近い」を例に—」 加藤祥 (国立国語研究所), 西内沙恵 (筑波大学[院]), 浅原正幸 (国立国語研究所)	“A Cognitive Study on Come and Go: Reflection of Home Base and a Viewpoint in Image Schemata” Mamoru Muramatsu (Kansai Gaidai University[院]), Tatsuya Kajiyama (Kansai Gaidai University[院])	「主名詞提示助詞の使い分け基軸に見る事態把握の変化—上代編—<指し言語>から<語り言語>そして係り結び (前接語焦点文) 成立へ—」 島映子 (東京福祉大学留学生別科)
	中央講堂 ラーニング commons	“Cross-linguistic Varieties in Coding Multiply-specified Trajectory Motion Events” Yuko Yoshinari (Gifu University), Miho Mano (Naruto University of Education), Kiyoko Eguchi (University of Miyazaki), Anna Bordilovskaya (Rikkyo University), Yo Matsumoto (NINJAL)	「日本語心理動詞文の刺激格の選択に表れる事態把握と客観的把握の相関」 大槻くるみ (東北大学)	「会話における「それこそ」の機能」 加藤恵梨 (大手前大学)	*Presentation in English 「プロトタイプからの隔たりはどのように記述されるか?—英語軽動詞構文の他動性による分類を基に—」 井口智彰 (大島商船高等専門学校)	

JCLA closing / ICLC opening (13:40~14:00) 会場: 中央講堂

特別講演 14:00 15:30 会場: 中央講堂	講師: William Croft (University of New Mexico) 司会: 堀江薫 (名古屋大学) 演題: Some Contributions of Typology to Cognitive Linguistics, Revisited
---	---